

TruPhase の導入(10) —アナログプレイヤーの交換(1)—

1. はじめに

TruPhase のアナログ再生においてアナログプレイヤーの交換を実施してみます。

2. TruPhase のアナログ再生における動作確認方法

接続は P&G のフェーダーと TruPhase を入れ替え、入力は、これまでの LINN LP-12 に替えて Garrad 401 からアナログアキュライザー経由の RCA 入力の ZANDEN Model 120 からアナログアキュライザー AACU-1000 経由の RCA 入力を TruPhase の RCA3 端子に入力し、出力は RCA 出力を Langevin 6V6pp に入力することで再生を行いました。即ち、アナログプレイヤーの交換と AACU-1000 を TruPhase の出力側から入力側に変更しています。

音源は、すでに前報(2)でも使用し、P&G のフェーダーで評価の固まっている次の音源を使用し、ZANDEN Model 120 の条件設定も既知の条件にしています。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG2367 (日本ポリドール)

ベートーベン：ピアノソナタ第 31 番変イ長調・第 32 番ハ短調

ウイルヘルム・ケンプ

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H

ミトマニア ベーレン・ゲスリン

3. TruPhase のアナログ再生における動作確認の結果

今回は、前報(2)の MySonic Signature Gold を装着した LINN LP-12 から Garrad401 に替え、カートリッジが ZYX R100-EX になり、ZANDEN Model 120 への入力が、バランスアナログアキュライザー経由の XLR 入力からアナログアキュラ

イザー経由の RCA 入力になっています。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas では、LP-12 でのミルシュテインの艶のあるボウイングや豊かな音色が空間に広がる様が聴けましたが、Garrad401 に替えても、若干音の繊細な表現が後退するものの相当の程度 LP-12 の再現ができています。

ドイツグラモフォン MG2367 のベートーベンのピアノソナタ第 31 番・第 32 番では、LP-12 でのケンプの緩急自在なダイナミズムを、Garrad401 に替えても相当の程度表現してくれています。

倍賞千恵子では、LP-12 ではボーカルもバックも自然で奥行き感が感じられましたが、Garrad401 に替えても伸び伸びと表現してくれています。

LONDON KLJC-9180/9184 のワーグナーのワルキューレでは、LP-12 では、オーケストラの迫力と歌手陣のやりとりが位置関係も含めてリアルでしたが、Garrad401 の場合に替えても、若干音の緻密さが後退するものの相当の程度 LP-12 の再現ができています。

harmonia mundi (Deutsche) KUX-3248-H のミトマニアでは、LP-12 でのボーカルはもちろんのこと、中世の古楽器である、撥弦楽器、擦弦楽器、管楽器、打楽器ともその質感がリアルに再現されていましたが、Garrad401 に替えても、音の細かい表現は後退するものの相当の程度表現してくれています。

4. まとめ

TruPhase は、ZANDEN Model 120 との相性もよく、アナログプレイヤーを Garrad401 に替えても、LP-12 に若干及ばない面もありますが、これまでに聴いてきた馴染みの盤が、新しい魅力を発揮してくれることが分りました。

以上